

《担当者名》 下村敦司 shimo@hoku-iryo-u.ac.jp 飯田貴俊 太田亨 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作
黒崎芳子 榊原健一 福田真二 森元良太 飯泉智子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 葛西聡子
辻村礼央奈

【概要】

言語聴覚学総論 に続く科目として、臨床実習に必要な臨床技能および態度を学ぶ。評価は、客観的臨床能力試験（OSCE）により行う。客観的臨床能力試験（OSCE）では、現実の診療現場を再現した状態下で臨床能力を評価する。

【学修目標】

言語聴覚療法の専門知識と技術を、医療現場において適切に実施するために、言語聴覚療法プロセスを学習し、言語聴覚士としての基本的な技能と態度を行うことができる。

1. 発声・発語、高次脳機能、聴覚に関する正常構造と機能について説明できる。
2. 発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害のメカニズムについて説明できる。
3. 発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害を、科学的かつ医学的エビデンスで解析できる。
4. 発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害を評価できる。
5. 発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害に対する治療計画を立案できる。
6. 適切な医療面接を行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	客観的実技試験（OSCE）について知り、その心構えを学ぶ。	福田真二
2	医療面接、報告、診療録記載の基本	医療面接から各種検査を理解する。 医療面接、報告、診療録記載の基本を学ぶ。	全担当教員
3	発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害の基本	発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害に関する基本事項と体系的な考え方を学ぶ。	全担当教員
4	言語聴覚士に必要な基本的実技	発声・発語、失語・高次脳機能、聴覚障害に関する基本的実技を身につける。	全担当教員
5	医療面接法	診療録記載等の基本を理解し、医療面接法を学ぶ。	全担当教員
6	発声・発語障害の評価	発声・発語障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
7	失語・高次脳機能障害の評価	失語・高次脳機能障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
8	聴覚障害の評価	聴覚障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
9	総括	第1回～第8回講義内容の総括と習熟度の確認を行う。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

客観的臨床能力試験（OSCE）100%

客観的臨床能力試験実施後、問い合わせがあった場合には疑問点に答える。

【教科書】

各領域の講義で紹介された教科書および配付資料

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書または配布資料を読み、理解に努める。また、理解できない部分はチェックしておくこと。

（80分）

復習は、授業範囲の教科書および配布資料を用い、また実技練習を通じて、講義で学習した内容を各自で深めること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

田村至、黒崎芳子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、飯泉智子、葛西聡子、辻村礼央奈（言語聴覚士）、中川賀嗣、太田 亨、才川悦子（医師）、飯田貴俊（歯科医師）、橋本竜作（公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

田村至、黒崎芳子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、飯泉智子、葛西聡子、辻村礼央奈：医療機関での言語聴覚士としての臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域に関する知見や各障害の評価・リハビリテーションについて講義を行う。
中川賀嗣、太田 亨、才川悦子、飯田貴俊、橋本竜作：医療機関での実務経験とその知識を活かし、講義を行う。